

## 第2章 都市づくりの将来目標

2-1 都市づくりの理念と方針

2-2 都市づくりの目標

2-3 都市の将来フレーム

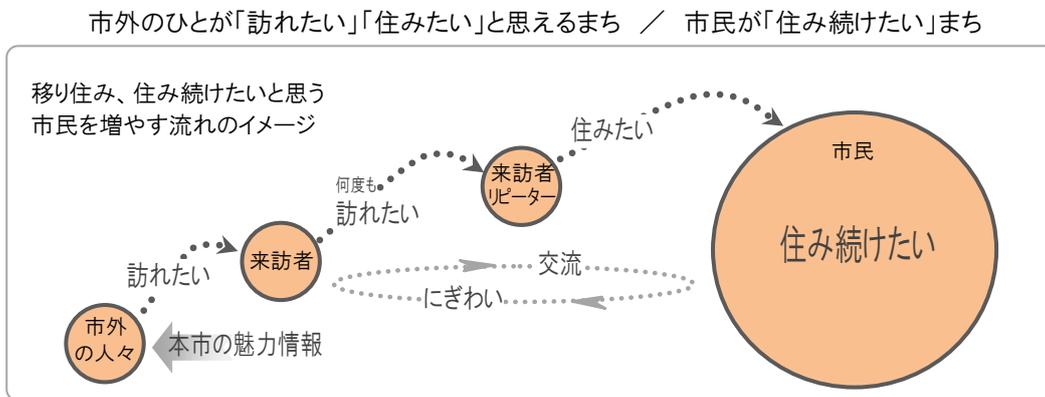
2-4 都市の将来の構造図

## 2-1 都市づくりの理念と方針

第4次総合計画では、キャッチフレーズを「住みたい 住みつづけたい 悠久の都 長岡京」とし、「うるおい・環境」「にぎわい・交流」「あんしん・安全」の3つの視点でつづっていく15年後（平成42年度）のひととまちの姿を定めています。

これからは、この3つの視点を踏まえて都市づくりの課題<sup>※1</sup>に対応しながら、本市の特性である「みどり」と「歴史」、更に近年一層高まっている「利便性」を活かした都市づくりが求められます。

人口減少・超高齢社会においてまちの活力を維持していくには、本市の魅力を知って「訪れたい」と思い、何度か訪れ市民と交流することで「住みたい」に変わり、移り住み市民になると「住み続けたい」と思う（下図参照）人の流れを生み出すことが重要です。



このため、本プランは、第4次総合計画の「うるおい・環境」「にぎわい・交流」「あんしん・安全」の3つの視点のもと、豊かなみどりと歴史に囲まれた住み心地の良い環境を活かし、これにひとの活動がまちの新たな魅力を生むことで本市に定住の流れを起こす、「みどり」「歴史」「ひと」の織りなすにぎわいとうるおいのあるまちを目指し、以下に都市づくりの理念を設定します。

### 都市づくりの理念

～訪れたい、住みたい、住み続けたい～  
みどり・歴史・ひとの織りなす  
にぎわいとうるおいの 長岡京

※1：都市づくりの課題：16頁に示した4つの課題を指します。都市づくりの課題と都市づくりの理念・目標の関係は、参考資料4をご参照ください。

この理念に基づく方針として、第4次総合計画の3つのまちの姿「環境」「交流」「安全」を踏まえるとともに、「ひと」の織りなす都市づくりの実現を加えた4つの方針を設定します。

都市づくりの方針

❖みどりと歴史を活かした魅力づくり	← (環境)	総合計画における15年後(平成42年度)のまちの姿の視点
❖地域特性に応じた交流とにぎわいづくり	← (交流)	
❖ひとや環境にやさしく安全で安心な空間づくり	← (安全)	
❖市民が文化やコミュニティを育む環境づくり	← (ひと)	

本プランの都市づくりの理念と方針

～訪れたい、住みたい、住み続けたい～

みどり・歴史・ひとの織りなす にぎわいとうるおいの 長岡京



## 2-2 都市づくりの目標

本プランにおける4つの都市づくりの方針「みどりと歴史を活かした魅力づくり」「地域特性に応じた交流とにぎわいづくり」「ひとや環境にやさしく安全で安心な空間づくり」「市民が文化やコミュニティを育む環境づくり」により実現する都市づくりの目標（平成42年度の姿）を以下のように設定します。

～訪れたい、住みたい、住み続けたい～

みどり・歴史・ひとの織りなす  
にぎわいとるおいの 長岡京

「環境」「交流」「安全」の方針に基づくまちづくりの取り組みが、平成42年度には大きな実を实らせませす。



方針〈環境〉

みどりと歴史を活かした魅力づくり

4つの都市づくりの目標（平成42年度の姿）として、「豊かなみどりが継承されている」「うるおいあるみどりの環境が身近にある」「歴史資源を活かした景観・環境がある」「みどり・歴史資源がつながり散策できる」を目指し、以下の取り組みを進めます。

▶自然の骨格を構成している西山や山麓の竹林、八条ヶ池周辺、水辺や農地など、市民の宝である豊かな自然環境・景観を保全し、次世代に継承します。

豊かな  
みどりが継承  
されている

▶西山や山麓の竹林、小畑川などの水辺、西国街道や社寺群など、みどり・歴史資源のまとまりを活かしながら、これらの資源を連携させて一体的に楽しめるよう、散策路の整備などによるネットワーク形成を進めます。

みどり・歴史  
資源がつながり  
散策できる

▶余暇活動のニーズの多様化に配慮した自然との交流空間の整備を進めます。

うるおいある  
みどりの環境が  
身近にある

▶身近な公園や公共施設、歩道空間、水辺空間などの積極的な活用により、みどり・花・水を活かした環境・景観整備を進めます。

▶特に、みどりの少ない中心部や幹線道路沿道などにおける緑化を推進します。

歴史資源を  
活かした景観・  
環境がある

▶八条ヶ池周辺、西国街道などの歴史資源周辺は、特性に応じた景観の形成などにより魅力づくりを進めます。

▶主要な歴史資源周辺における、歴史に親しむ憩いと学びの環境整備を進めます。

**方針〈交流〉** **地域特性に応じた交流とにぎわいづくり**

3つの都市づくりの目標（平成42年度の姿）として、「中心部がひとびとでにぎわっている」「地域特性に応じた良好な市街地環境になっている」「イメージ向上につながるまちなみがある」を目指し、以下の取り組みを進めます。

- ▶交通メイン軸の形成とともに、特性に応じた景観整備、歩きたくなるような回遊性の高いシンボル軸の整備を進めます。
- ▶ひと優先のみちづくりやひとにやさしい道路空間の整備を進めます。
- ▶阪急長岡天神駅前広場や市街地整備と併せて、誰もが集い憩える交流・イベントの場づくりなど、中心部としてふさわしい拠点と一体となったまちづくりを進めます。

**中心部がひとびとでにぎわっている**

- ▶長岡京市らしさを形づくる代表的な景観に配慮した魅力あるまちなみを育成する意識を啓発し、住まいやまちのブランドイメージを高めるよう努めます。
- ▶良好な景観を形成している資源・地区や、交通拠点・軸、中心部・公共公益施設集積地などの拠点地区において、モデルとなる景観整備を進めます。

**イメージ向上につながるまちなみがある**

- ▶比較的建物の密度の高い市街地では、地区の防災性の向上とうるおいづくりに取り組みます。特に中心部では、良好な都市型住宅の整備を促進します。
- ▶阪急西山天王山駅を含めた市域南部においては、優れた交通条件を活かした都市機能の導入に向け、周辺環境との調和に配慮した市街地整備を進めます。
- ▶工業が集積した市街地では、住工農混在の改善に努めるとともに、工場周辺などの緑化推進により既存住宅との良好な共存環境づくりに努めます。

**地域特性に応じた良好な市街地環境になっている**

- ▶農地などが比較的残っている市街地では、新たな公共交通空白地域<sup>※1</sup>や不便地ができないように留意しながら、無秩序な開発を防ぐことにより良好な市街地環境づくりを進めます。併せて、市街地内農地の保全・整序とオープンスペースとしての有効活用を進めます。
- ▶山麓部などの比較的良好的な環境を有する住宅地では、継続的な環境・景観の維持・保全を進めます。

※1：公共交通空白地域：駅やバス停から遠く、公共交通の利用が困難な地域を指します。

## 方針〈安全〉 ひとや環境にやさしく安全で安心な空間づくり

4つの都市づくりの目標（平成42年度の姿）として、「誰もが自由に市内を行き来している」「環境負荷が少ない暮らしをしている」「災害から暮らしが守られている」「誰もが安全で安心して暮らしている」を目指し、以下の取り組みを進めます。

▶障がいの有無、年齢、性別などに関わらず全てのひとが自由に安心してまちを行き来できる、連続性に配慮したバリアフリーのまちづくりを進めます。

▶公共交通機関を利用しやすい環境整備を進めます。

▶まちを散策・回遊したくなる魅力ある歩行者・自転車の通行空間など、ひと優先のみちづくりを進めます。

誰もが自由に  
市内を行き来  
している

▶福祉施設の充実や高齢者・障がい者などに対応した住宅の整備を促進します。

▶子どもの社会学習・交流・遊び環境や若年層の健全な育成環境、子育て支援などの環境整備を進めます。

▶防犯・交通安全の環境整備を進めます。

誰もが安全で  
安心して  
暮らしている

▶再生可能エネルギーの取り入れや断熱性の高い住まい、地域の自然を活かした暮らしができる、環境にやさしいまちづくりを進めます。

▶鉄道・バスなどの公共交通や自転車の利用を促進するなどにより、環境負荷の少ない交通体系へのシフトを進めます。

環境負荷が  
少ない暮らし  
をしている

災害から  
暮らしが  
守られている

▶安心して住み続けられる災害に強いまちづくりを進めます。特に建物の密集する地域における防災力の向上に努めます。

▶市民に対する防災情報の提供などのソフト対策と、道路や河川の整備といったハード整備が一体となった防災対策を進めます。

方針〈ひと〉

市民が文化やコミュニティを育む環境づくり

2つの都市づくりの目標（平成42年度の姿）として、「市民のまちづくり活動が展開されている」「地域でのコミュニティが育まれ活発な交流がうまれている」を目指し、以下の取り組みを進めます。

- ▶市民のまちづくり活動の支援と併せて、活動の環境づくりを進めます。
- ▶福祉・防災・環境などの課題に対応する市民活動の啓発や、まちづくり協議会制度の活用などを通じた積極的なまちづくり活動を促進します。

市民の  
まちづくり活動が  
展開されている

地域でのコミュニティが  
育まれ活発な交流が  
うまれている

- ▶芸術・文化・生涯学習・健康スポーツ活動など、多様なひとの創造と交流が活発に行われるような環境づくりを進めます。
- ▶誰もが参加・交流できるコミュニティの場づくりと、コミュニティ活動のネットワーク化を進めます。

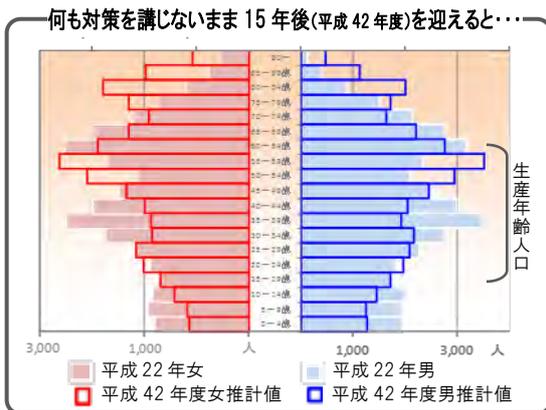
## 2-3 都市の将来フレーム

本市では、交通利便性の良さから、これまで継続して民間による住宅開発などが進み、人口は現在微増傾向にあります。しかし、平成27年をピークに人口減少に転じ、目標年度（平成42年度）には、約76,400人になる予測があります。

このまま何の対策も講じず人口減少が起こると、生産年齢人口が減少し、高齢者層が多くなり、年齢構成のバランスが不安定になるなど、都市活力の低下が危ぶまれます。このため、人口減少を抑える対策が必要になります。

都市計画の分野における一つの対策として、特急停車駅でもある阪急長岡天神駅、広域交通結節点となる阪急西山天王山駅周辺の利便性の高い地域におけるにぎわいづくりや定住につながる土地の有効活用※1が考えられます。

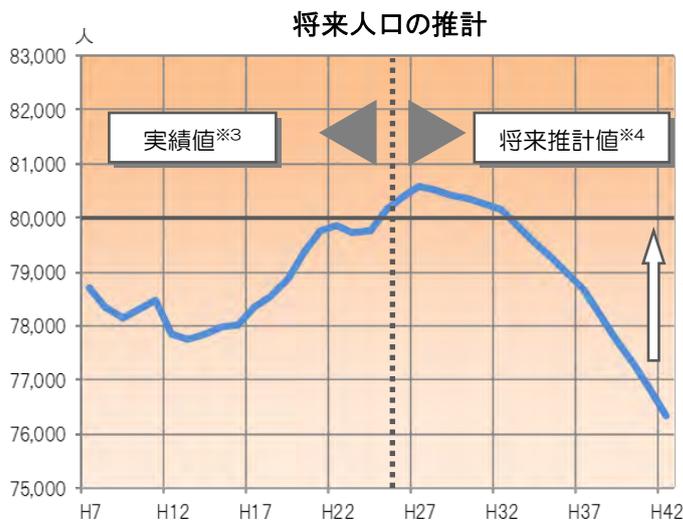
また、第4次総合計画では、今後も魅力あるまちづくりを進め、交流人口の増加や定住志向の高まりを促すよう、市民生活の安定を守りながら、年齢構成のバランスの確保に努めていくこととして、平成42年度において8万人の市民がゆとりを持って暮らせるまちを目指すとしています。



このため本プランでは、本市の特徴である「広域交通条件・立地の良さ」「恵まれた自然資源」「特色ある歴史文化資源」を最大限に活用したまちづくりを進め、第4次総合計画の将来人口との整合も図り、将来人口フ

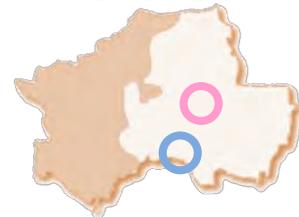
8万人

に設定します。



人口減少を抑える可能性

- 阪急長岡天神駅周辺の土地の有効活用
- 阪急西山天王山駅周辺の土地の有効活用



※1：土地の有効活用：駅に近く利便性が高い地域における未利用の土地や、敷地に対して開発可能な“容積率”を有効に利用した住宅などの開発を指します。

※2：フレーム：枠を表し、将来人口フレームとは将来の人口の概ねの枠組みのことです。

※3：実績値：国勢調査年（平成7,12,17,22年）は国勢調査人口、それ以外の年は国勢調査をもとに住民基本台帳などの移動人口を増減した京都府人口推計値です。

※4：将来推計値：階級別の人口に生存率・出生率などを用いて将来の人口を推計した値です。

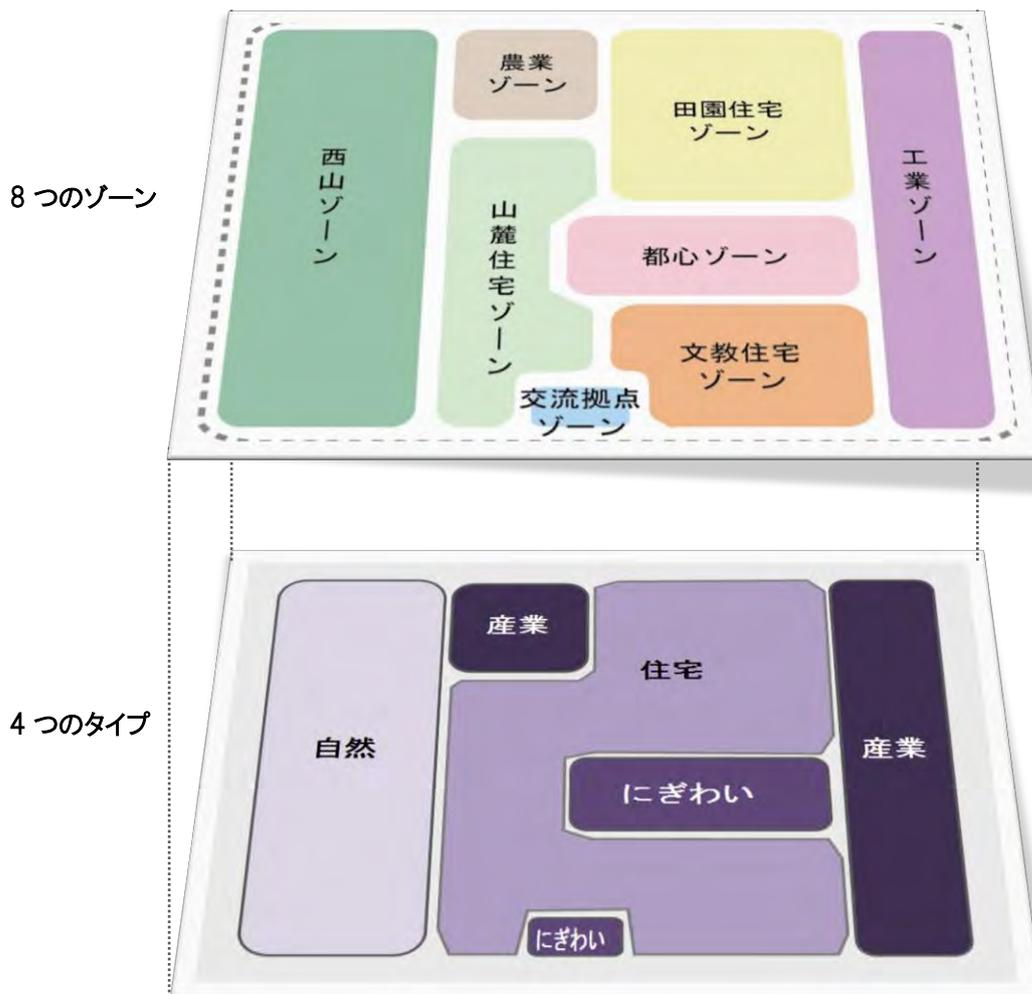
## 2-4 都市の将来の構造図

都市づくりの目標（平成42年度の姿）の実現に向け、土地利用ゾーンをベースにして、都市の将来の構造図を、交通軸、拠点、みどりと歴史の回廊により設定し、まちづくりを進めます。

### 土地利用ゾーン

本市の土地利用は、西山、西山山麓から東へなだらかに広がる斜面と平坦地という地理的な特性に従って、いくつかの特徴的な地域に分けることができます。

この特性に即して「にぎわい」「住宅」「産業」「自然」の4つのタイプ、8つのゾーンを設定します。



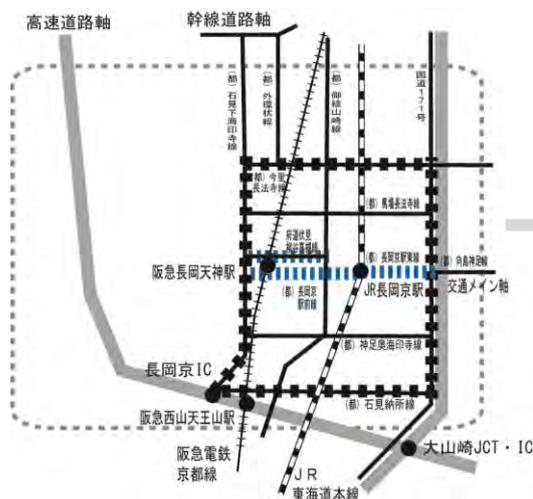
特性に即した4つのタイプ8つのゾーンの現況

いきわい	<p><b>都心ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶本市の玄関口であり、行政機関、金融機関などの業務施設、商店街、大型スーパーなどの商業施設が集積している。</li> <li>▶本市を代表する歴史的資源であり市民の憩いの場でもある八条ヶ池周辺には市内外からたくさんの人が集まる。</li> </ul>	<p><b>交流拠点ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶長岡京 IC 及び阪急西山天王山駅の整備により、新たな交通結節点として整備された地域である。</li> <li>▶駅前広場、公園、駐車場、側道などが整備されたことから駅前広場周辺の利便性は一定確保された。</li> </ul>
	<p><b>山麓住宅ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶昭和 40 年代から比較的大規模で良好な住環境の新興住宅が旧農村集落を取り囲むかたちで開発された。</li> <li>▶現在、高齢化率の上昇・人口減少が見られる。</li> <li>▶京都縦貫自動車道により小泉川沿いの景観が変化した。</li> </ul>	<p><b>田園住宅ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶昭和 40 年代に開発された新興住宅地による人口の急増とともに、農地や竹林の宅地化が急速に進んだ。</li> <li>▶企業跡地などで大規模マンションや宅地が開発されてきたが、それ以外では、高齢化率の上昇・人口減少が見られる地域が多い。</li> <li>▶穴抜き状の市街化調整区域（農地）がある。</li> </ul>
住宅	<p><b>農業ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶市域北部の市街化調整区域にまとまりのある農地が広がる。</li> <li>▶隣接する市街地にゆとりとうるおいを与える。</li> <li>▶支援学校など福祉施設が立地している。</li> </ul>	<p><b>工業ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶京都市南部及び向日市から連なる工業地帯となっている。</li> <li>▶企業跡地や農地において宅地開発が進むことで、住・工・農が混在している。</li> </ul>
	<p><b>産業</b></p>	
自然	<p><b>西山ゾーン</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶西山は市面積の約4割を占める本市を代表する自然資源である。</li> <li>▶山麓部はタケノコ生産が行われており、貴重な生産活動の場でもある。</li> <li>▶産官学民による森林の保全活動が行われている。</li> </ul>	
	<p><b>自然</b></p>	

**交通軸**

交通軸は、目的に応じた機能、性格から以下の3つの軸とそれらにより形成される環状道路を設定します。また、駅やICといった乗り換え・接続の拠点を交通結節点として設定します。

名称	機能
高速道路軸	京阪神、京都府内を南北に結び、広域高速移動を可能にする道路
幹線道路軸	都市間を結ぶ道路、市街地内の交通を円滑にする道路
交通メイン軸	公共交通サービスの充実やひとを優先する道路
環状道路	通過交通の流入抑制により市街地内交通を円滑にする環状の道路
交通結節点	駅や高速道路ICなどの各移動における乗り換え・接続の拠点



**拠点**

都心と広域交通と歴史・文化・レクリエーションの各機能の中核を担う拠点を設定します。

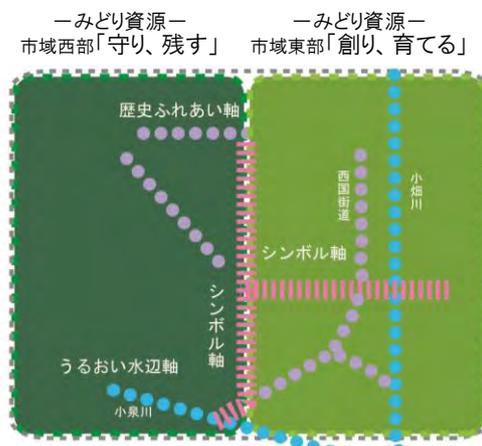
拠点名称	機能
都心拠点	本市の商業・業務機能などの中核を担う拠点
広域交通拠点	広域公共交通網である鉄道と高速道路を結ぶ拠点
歴史・文化レクリエーション拠点	主要な歴史・文化・レクリエーション資源拠点



**みどりと歴史の回廊**

河川などの水辺を「うるおい水辺軸」、歴史文化資源や田園風景などをめぐる「歴史ふれあい軸」、都心拠点間を結ぶ「シンボル軸」とします。また、市域西部のみどり資源は「守り、残す」みどり、市域東部のみどり資源は「創り、育てる」みどりとして位置づけます。これらを総称して「みどりと歴史の回廊」と設定します。

回廊名称	機能
シンボル軸	都心拠点などを結ぶ歩きたくなる回廊
うるおい水辺軸	主要な河川沿いの水辺空間を楽しむ回廊
歴史ふれあい軸	主要な歴史資源、社寺仏閣、田園の原風景をめぐる回廊
みどり資源 市域西部	山林や農地などの面的みどりを活かしながら「守り、残す」
みどり資源 市域東部	水辺や主要道路などの線的なみどりを活かしながら「創り、育てる」



※1：図中（都）：都市計画に位置づけられた都市計画道路の略号です。

都市の将来の構造図

